

第三十五回 「全日本中学生水の作文コンクール」

広島県優秀作文集

平成二十五年

広島県土木局

目次

優 秀 賞 (応募順)

節水への意識

広島市立古田中学校

三年

谷口

紗那

特別な水

銀河学院中学校

一年

岡田

怜恩

水のリサイクル

銀河学院中学校

二年

殿迫

謙太郎

入 選 (応募順)

水を大切に

広島市立古田中学校

二年

松本

佳大

水が教えてくれる大切なこと

広島市立古田中学校

二年

宮畠

絢香

〇〇〇〇をなくすこと

広島市立古田中学校

二年

三好

実里

今、世界の水は

銀河学院中学校

一年

見尾

遠馬

水のありがたさ

銀河学院中学校

三年

中村

捺希

ぼくたちが使っている水

神石高原町立神石中学校

一年

圓道

春弥

水の大切さを感じた日

盈進中学校

二年

北澤

大希

優 秀 賞

節水への意識

広島市立古田中学校 三年 谷口 紗那

私たちの学校はESDという持続可能な社会を私たちがつくるという考えを身につけるための学習を行っています。その授業の中で水について考えるというものがありました。

その学習の中で水のことを調べている友達と節水について話したことがありました。その話の中で友達が同じ日本でも四国の香川県では、降水量などの問題により一日に使う水の量を制限されることがあるということ話を話していました。気になって授業のときに調べてみると、香川県全体で供給制限が起こるのは五〜六年に一回くらいだそうです。一部地域では毎年又は一〜二年に一回と高い頻度で制限されていることが分かりました。また、香川県や愛媛県では節水を呼びかけるポスターが町に多く貼ってあるそうです。同じ日本なのに県や町によってこんなに水への意識が違うのかと驚きました。今、私たちにできることは何だろう。それを見つげるためには香川や愛媛の人たちが一日に使う水の量を制限されている時の気持ちを知る必要があると思います。一般的な一日の水の使用量は約300リットルだと言われています。そこで私は普段使う量の10パーセント制限した量の水で生活してみました。三日間実践して一番苦労したのは、今は制限中だと意識することです。どうやったら効率よく節水できるのか考え、常に節水の意識を保ちながら行動することが大変でした。時間がたつにつれ、気づいたらいつも通りの水をどばどば使ってしまうということが何回かありました。

しかしその反面、制限中に気づいたことは歯をゆすぐ時はコップに半分の水で十分足りること、手を洗うときは大量の水で勢いよく洗うより、少しの水でゆっくりに洗う方が汚れもしっかりおちた感じがするし、水の

量も少なくて済むということなどです。そしてなにより、水を使うときに少し意識するだけで、その小さな意識が節水をしようと思う気持ちにつながっていくことに気づきました。

節水に取り組んで自分が普段どれだけの水を無意識に大量に使っていたか知ることができました。それと同時に、私はみんなの水への意識を高めることが必要だと思いました。だから、まず私がこれからも制限中だと意識して節水に取り組んでいきたいと思っています。そして、意識しなくても自然と節水ができるようにしたいです。節水こそが今私たちにできる一番身近なものだと思います。小さなことですが、みんながやれば大きな力になります。香川や愛媛の人たちもそうして渇水の危機を乗り越えてきました。一人ひとりの水に対する意識向上の初めの一歩は節水です。私は水の大切さを教えてくれた節水をたくさんの人たちに広めて、水という有限の資源をみんなの力で無限に変えていきたいです。

優 秀 賞

特別な水

銀河学院中学校 一年 岡田 怜恩

あたり前に存在することをよみ

「空気のような・・・」

とか

「水のような・・・」

とかという表現をするが、僕にとっての水はまさにこの表現がぴったりでいつも手に入るあたり前のものだ。だが今回改めて「水」というものについて考えてみたら、あたりまえの水は、「特別な水」だった。

「地球上で私達が使える水はわずか1%しかない。」

福山市中津原浄水場見学で聞き、強く印象に残っている言葉だ。またここでは、川の水が人が飲めるまでになるにはいくつもの工程を経ていることを知ると共に、そこまで人の手を加えないと現在の川の水は飲めないほど汚染されていることに驚いた。水質汚染の主な原因は、生活排水だそう。みそ汁一杯を浄化するには、バケツ4杯の水が必要とも聞いた。私達の生活が近代化し便利になると引き換えに自然を汚しているとも思える。身の周りのキレイさばかりに目が行きがちな日常生活だが、一番大切な自然を汚していることに気づかされた。水の使い方を直すべきだと思う。

僕の祖父は米作りをしている。その米作りで最も重要な作業が水の確保だ。特に田植えシーズンともなるとどの家でも水の確保に神経を使う。各集落には、水がめともいえる池があり、その水を分け合って使っている。自分勝手は許されないし、厳格なルールがあるそう。限られた水を皆で大切に使用している話を聞くと、今の僕たちの水への接し方で欠けているのはこういう水を大切にすることが大切だと思ふ。僕自身、水は使

いたい時に使いたいだけ使う身勝手な使い方、自分の生活リズムに合わせて水を使っているが祖父たちの米作りを見ると自然や季節のリズムに合わせて水の使い方をしてるように思ふ。

あたり前のようにあるこの水は、豊かでない自然環境があつてこのものなのだ。たとえ町の中で生活していても、祖父の水への接し方を忘れてはならないと強く感じた。浄水場の方が水を守ることは、生活を守ることと言われていたが水は、自然環境や私たちの生活全てに関わっていると感ずる。

今蛇口から出てくる水は、僕にとって間違いなく大切な、大切な、

「特別な水」

だ。

優 秀 賞

水のリサイクル

銀河学院中学校 二年 殿迫 謙太郎

京都に住んでいる姉が

「京都は琵琶湖の水利権を持っていて、琵琶湖疏水で町に水を引いているのだけど、琵琶湖には滋賀の人が使った水が浄化されてまた戻されているので、京都の人たちは一度滋賀の人たちが一度使った水をまたきれいに使っているともいえる。また京都の人が使った水は下水処理施設で限りなくきれいにされるが、最終的に淀川に流れてその淀川から水を引いている大阪の人たちが浄化処理をして再度その水を使っているんだよ。」

と教えてくれました。

僕は今まで、雨が川や山へ降って、山から川へ流れてきた水を浄化して使い、一度使った水は下水処理されて海へ流されるだけで二度と使わないものだと思っていたので、姉の話は衝撃でした。でも、姉によると、多くの都市は臨海地にあるから、下水浄化処理をされて使っている場合も少なくはないということでした。

水は人間だけでなく生き物すべてが生きていく上でなくてはならないものです。飲み水、料理に使う水、洗う水、汚水を流す水、・・・回りにどれだけ水が使われているか数えあげるときりがありません。また人間の身体の七割は水で出来ています。それなのに僕は今まで水に困ったこともなく、あたりまえのように蛇口からいくらでも出るので水について深く考える機会もありませんでした。

だから姉の話を聞いた時に、まず使われた水を飲めるまでに浄化する技術があることに驚き、調べてみるとこの県でも下水処理水を貴重な水資源として積極的に利用していることがわかりました。

僕の住んでいる福山の水道水がペットボトルに入って商品化されたものをもらったことがあります。また、東京や大阪の水道水も販売されています。それだけ日本は水道事業の技術力に自信があり、進んでいるのだなと誇りに思いました。

でも、どれだけ技術力が進歩しても水源を守っていかなければ追いつきません。水源を守るために各自治体では一年中ゴミ拾いをするなどさまざまな活動を行っているようです。

きれいで安全な水を供給するために国や自治体はさまざまな努力をしています。僕もこれからは意識して水を大切に使い、食器は汚れや油をふきとってから洗うとか、洗剤は極力少なく使用するなど流すときも気をつけようと思います。小さなことかもしれませんが、水はまた自分のところへ帰ってくるのですから、一人ひとりが気をつけることによって安全に回っていくのだなと思いました。

水を大切に

広島市立古田中学校 二年 松本 佳大

私たちが普段利用している水は、野菜をゆでるときや、服を洗濯するとき、または飲むときなどによく使う。その他発電にも利用され、人々の生活をあらゆる面で支えている。これらのことから僕は、私たちにあって水というものが、人類が一番使う資源で、それはいつでもきれいでいつでも利用することができる、「あつてあたり前の存在」であると僕は考えた。

しかし、世界に目を向けてみると、そうではないということが知った。世界の中にはきれいな水を飲めずに、食中毒などの病気を起こしてしまっている人たちが、五人に一人の割合であり、そのためにより亡くなっている人たちも数えきれないほどいるのだ。そんなことを知らないまま、私たちは水のことを、「あつて当たり前」の存在だと思って、歯みがきをするときに、使っていないのに水を出していたり、風呂に入っているときもシャワーを使わないのに出しっぱなしにしていたりと、むだ使いをとてもしているのである。また、このために私たちは自らを水不足へと追いこみ、勝手に自分たちで自分たちの寿命を縮めようとしているのだ。

さらに、水というものはさまざまな問題を起こしている。水のむだ使いから起こる水不足の問題や、地震から起こる津波や土地の液状化、さらには金属をとくしたり植物に害を与える酸性雨など、たくさんある。水は私たちの生活を支えている反面、私たちが悩ませているのである。

そこで僕は、水がない世界だといっているのではないかと考えた。そうならば、たびたび津波や液状化などについて考えなくてもよいということと同時に、そういった水が引き起こす被害さえもなくなることができる。しかし、私たち人間や、植物や動物は、水がないと生きていけないため、

水のない世界は実現できず、また、「水」というものが、「なくてはならない存在」であるということを知った。

これらのことから僕は、水の使い方について水という概念を、「あつて当たり前」の存在から、「なくてはならない存在」にかえてから、身近な水を節約する方法を行うべきだと考えた。風呂の残り湯を洗濯機に使うことや、顔を洗うときは洗面器に水をためてする、といった節約は、水を「なくてはならない存在」として考えれば、必ず効果が出てくるのではないだろうか。

水が教えてくれる大切なこと

広島市立古田中学校 二年 宮島 絢香

私達は水をいつ使っているのだろうか。手を洗う時、歯をみがく時、お風呂など日頃の生活の中ではこの何倍も水を使っているだろう。私達が生活していく中で水は欠かせないものだ。仮に、水を使わない生活を想像しよう。手も洗えない、お風呂にも入れない、飲む物もなくなる。これは食生活にも大きく関係することである。飲み水がなくなると、人間や動物は脱水症状になり命を落とす事となるだろう。また、植物は枯れてしまい地球から緑がなくなるだろう。このように仮説を立てたが、これが現実となれば地球上の生物はあとかたもなく姿を消すであろう。この世にある水は、自分自身の命にかかわるほど重要で怖いものである。すなわち命と同じような存在ということだ。私達は身近に使っているが大切なものであり、なくてはならないものだということ事を心に想い続けなくてはならない。

しかし、水を使う者一人ひとりが水に対して大切にしようと思っはけないだろう。この例としていえるのは、水の出っぱなしである。私達は、歯をみがいている時、お風呂に入っている時に一滴でも使う水を減らそうと思っているだろうか。おそらく思っている人は少ないであろう。それは、水をあたりまえのように使って生活しているからだ。世界中には、きれいな水が出る水道のない国がたくさんある。それらの国の中には、片道二時間かけて、川へ水をくみに行く人、我慢して泥水を使う人、たくさんの人々が生活に必要な水を苦労してとって来たり、辛い思いをしながら水を使っているのだ。きれいな水を使える私達が水を出っぱなしにしているという事は、きれいな水を使うことの出来ない人々の気持ちを無視しているのと同じなのである。このまま水資源のな

い国を増やしていくと、水資源をめぐる紛争、あるいは大きな戦争が国土で起こりうる可能性がある。これによる死者も出てくるだろう。もし実際に水をめぐって争いが起き、たくさんの方が命を落としたりとなったら、人の気持ちを無視し続けてきた私達にも責任はある。

このような事が起こらぬように、世界中の人々全員が平等に水を使うためには、どうしたら良いのかを一人ひとり考えなければならぬと思う。私は世界中の国で募金をし、この集めたお金を、きれいな水を使えない国へ寄付し、水道の設備を設ける活動をしていきたいと思っている。一人ひとりが水への意識を高め日頃の生活の中で水の無駄使いがないか確かめる事から気を配る事で水に対する想いが変わるはずだ。この事は世界で困っている人々にも気を配っているのと同じではないのだろうか。私達人間は、相手を思いやる事から始まるのではないのでしょうか。水は、人の気持ちを考えると、私達に伝えているのではないだろうか。

〇〇〇〇をなくすこと

広島市立古田中学校 二年 三好 実里

この〇〇〇〇の中の言葉、いったいどのくらいの人がかかるだろうか。私は、今まで、「水」について深く考えたことがなかった。しかし、改めて考えてみると「水」は人間にとってなくてはならないもの、つまり、「命の源」だということに気がついた。私のお母さん自慢のロールキャベツは、野菜を使う。野菜は、農薬や汚れを落とすために洗わなければならないし、スープもお湯がないとつくれない。また、服もお皿も、石けんや洗剤だけでは洗うことはできない。「水」は、私達の生活になくってはならない存在なのだ。

しかし、私達の「水」の使い方には問題がある。それは、私の身近な所で、三つも起こっているのだ。一つ目は、「水道の水を流しっぱなしにする」ということである。「すへ歯をみがき終わるから」「や」「急いでいるから」などの考えが次第につみかさなり、「水」の問題がうまれてしまうのだ。二つ目に、「蛇口をしっかりと締めない」ということである。これは、一つ目の「水道の水を流しっぱなしにする」ことをなくすために取り組んだことが、きちんとしていなくて起ってしまう。蛇口を締めていたつもりでも、それがゆるいと水は流れていき、毎日続けは「水道の水を流しっぱなしにする」と同じである。三つ目、「お風呂の水をそのままする」ということである。我が家では、これを見直して、植物の水やりや、洗剤をかえて洗たくの水に使っている。

むだ使いは、私達でなおすことができるのだ。

もし、このまま「むだ使い」を放って毎日すすいで、いつのまにか世界から水が消えてしまったりするのだろうか。まず、水がないのだから、食べ物をつくることもできな。すると、食料不足が起り、食料をめぐる

る争いが絶えなくなるだろう。また、体も服もお皿も洗うことができなくなる。そうすると、体は弱っていき、病気になるやすくなったり、病気になるって死んでしまいかもしれない。世界が危険な状態に、おかされるのだ。

水を守るために、私達ができること。「水道の水を流しっぱなしにしない」こと。「顔を洗うときは、プラスチックの入れ物に水をためてから使う」こと。「お皿を洗うときは、洗剤を多く使わず、あまりあわだたせずに、少ない水の量で落とす」こと。

「むだ使い」をなくすこと。それが、水を守る第一歩につながるのではないだろうか。

今、世界の水は

銀河学院中学校 一年 見尾 遠馬

今、みなさんは、生活が豊かですか？と問いかけると大半の人は、はいと答えるでしょう。じゃあ、次は質問を少しかえてみます。今、世界の水は豊かですか？。これについてははいと言いくいかもしませんが、今、世界の水は豊かとはいえません。それは色々な問題があるからです。それを、知ってもらうために、色々な問題について知ってもらうと思います。

世界の水が足りない。わたしたちがくらしている日本はよく雨がふるので、水が足りないということはあまりありません。しかし、それに対して、西アジアやアフリカは雨が、年間を通して、極端に少なく、雨は降っても、国土がせまく平たんのため、水がたまらずに、深刻な水不足に苦しんでいます。

人口が増え続けていると・・・。2010年3月末時点で世界には、68億人以上で、毎年、約8000万人ずつ増えています。そして、ほくは、ある資料を見つけました。そして、その資料を見てみると、そこには、人口の推移について、のっています。1800年は今の約6分の1の11.25億人でした。だが、その人口はしだいにどんどんふえていき、2000年には61.15億人と6倍になりました。そして2025年には80.12億人となり、2050年には、じつじつ91.50億人となっていくことになる予想されています。これによって、ほくはなにをいいたいかというと、人口が増加するのにもない、よりのたぐさんの水が必要になるということです。これによって2050年には40億人の人々が、水不足の状況になると、予想されています。

くらしが豊かになると・・・。これまで、水道のなかった地域に水道

設備ができたり、化学技術の発展などにより、生活がどんどん豊かになっています。しかしそれによって、水を使用する機器が普及しつつあります。それによって、水を使う量は、年々ふえていっています。たとえば、お風呂は210リットル、トイレも210リットル、台所と洗たくは250リットルと、かなり水を使っています。

ふえつつける水災害。水は、ときにはおそろしい力で災害の原因にもなり、わたしたち人間におそいかかってきます。近年、世界的に水災害の発生件数が増加しています。じゃあなぜ水災害が増えてきているのでしょうか？。その理由は色々ありますが、一番の理由は急激な都市化による開発や森林の伐採によっておきるケースです。年々、森は少なくなってきたいます。そうすることで森の保水力が失われてきて、土砂崩れや洪水が多くなってきました。そのせいで世界の水災害による死亡人数は1996年〜2000年は39743人だったのに対し、2001年〜2005年は62367人とかなり増えてきています。

このように、地球の水が大変なことになっています。じゃあどのようにすればいいのでしょうか。それは、ちょっとしたことを見つけることです。シャワーはこまめに止めるとか、フコの残りは洗たくの水として再利用するなど、たぐさんのことがあります。水の未来はみんなの行動でできます。なんとか、水をふやしていきたいものです。

水のありがたさ

銀河学院中学校 三年 中村 捺希

皆さんは、安全な水があるというありがたさについて考えたことはありますか？私は、日本に住んでいるので正直、あまり考えたことはありませんでした。しかし、世界では地球環境の悪化により、水不足が発生しています。現在でも、三十一ヶ国が水不足で悩んでいます。きれいな水を飲めない人たちは、病原菌に汚染された水を飲んで亡くなってしまいう事が多く、水に関係する病気で八秒に一人というペースで子供が死亡しているそうです。つまり、今のこうした時間にも安全な飲料水を確保できずに困っている人たちがいるのです。

テレビや新聞などで水不足の事を見ても、全然気にせず自分が良ければそれでいいという考え方をしている人、たくさんいると思います。でも、そういう人たちが、どんどん出てくると、何も変わりはないと思います。

人間一人当たり最低限の必要な水の量は一日五十リットルです。ところが世界では、十一億人の人々が、水源から一km離れたところで生活しています。そのほとんどが、使用できる水の量が一日五リットル未満で、野生動物と同じ沼の水を飲まなければならない場合も多いのです。私たち日本人は、一日平均三百八十リットルの水を使っています。その半分、百八十リットル以上が、トイレ、お風呂に使われています。

私は今まで、あまり世界の水不足の問題について考えたこともない、それに水への感謝をしたこともありませんでした。

でも、この水の作文について書くために、調べて同じ地球でも水不足で困っていたり、悩んでいるという事実を知ったからには、何もしないでいるというのはいけないことだと私は思います。だから、まずは水不

足で大変な思いをしている人たちのことを考えて、誰にでもできる小さなことからでも、少しずつやっていこうと思います。

私はよく、水を出しっぱなしにしてしまうことが多くあり、お母さんから注意を受けてしまいます。結構前にも、シャワーのお湯を四十分間くらいずっと流しっぱなしにしてしまったことなんかもありました。

これからは、歯をみがくとき、顔を洗うとき、お風呂に入るときには、水を出しっぱなしにするのではなく、お母さんから注意される前に、自分から止めたいと思います。今までなんとなく私たちが使っていた水で、自分に出来ることはほんの小さなことでも、他の人へそれが広まって、難しいかもしれないけれど、多くの人が意識し合えば少しでも世界が変わると思います。

ぼくたちが使っている水

神石高原町立神石中学校 一年 圓道 春弥

ぼくは、毎日のように、水を使っています。米をたぐのに使ったり、水洗トイレを流すときに使ったりしています。でも、使った水はどこでどのように川に流されるかを考えたことはありませんでした。

調べてみると、浄化槽や下水処理場で処理された水でも、水質の基準を表す単位BOD（生物学的酸素要求量）が5mg／リットル以下でないこと、魚が住むことができないということが分かりました。BODの数値が小さいほどきれいな水だといわれています。法律で決められている下水処理の基準によると、下水処理場から放流される処理水は、BODが20mg／リットル以下を基準に排出することになっています。また、その処理水は、川などの浄化作用によってもっときれいになります。しかし、それでも、環境に負担をかけてしまっているのです。このことが「トイレから考えよう環境」という本を読んで分かりました。BODが20mg／リットルの処理水を浄化作用できれいにしても0mg／リットルにすることはできません。だから、少しずつ川は汚れていきます。このままいくと、魚たちが住むことができなくなります。魚がいなくなれば、ぼくたち人間や魚を食べる鳥などの食料が減ることになります。人間は、魚が食べられなくても鳥肉やぶた肉や牛肉など肉類を食べることができるとは、魚を食べていた鳥たちは、食べ物が減り、ひよっとすると絶滅してしまうかもしれません。また、魚が少なくなれば、魚を取る漁師の方や、魚を使うし屋など、魚に関わる人たちが困ってしまいます。それでも、ぼくたちが使った水を下水処理場と自然の浄化作用によって、ある程度キレイにして、川に流すしか今の現状ではできません。しかも、水を汚しているのが誰なのかを、一人一人明らかにするこ

とはできません。ぼくも含めて、ほとんどの人が少しずつ汚しているのです。

だからといって諦めてしまうと、地球の水は増々汚れ続けて、十年、二十年たつと、もうきれいにすることができなくなると思います。それを防ぐためにぼくたちにできることがあります。フライパンについた油を不要な紙でふきとったり、洗剤の使用量を少しにしたりして、水を汚さないということや、今より、下水処理場の能力を強化することです。水をもっときれいにして、川や海に流し、川や海を魚たちが住める環境にしてやりたいです。漁師の人たちにも魚がたくさんとれるようにして、仕事をこれからも続けていってもらいたいです。そうすることで、ぼくたちの暮らしに、きれいな水、新鮮な魚たちももどってくると思います。だから、自分たちで、できるだけ水を汚さずに生活していくことが未来の暮らしへの影響を少なくすることにつながると思います。

ぼくは、一冊の本から身近にある水の大切さを痛感しました。そして、ぼくたちに何ができるかを考えました。ぼくたちにできる小さなことが積み上げれば大きな力になるはずですよ。

これから、自分でできることはやって、魚たちや貝たちが住める環境にしてやりたいです。きれいな川や海を守って、ぼくたち自身もきれいな水を使えるように、日々過ごしていこうと思います。

水の大切さを感じた日

盈進中学校 二年 北澤 大希

僕は、盈進中学校の環境科学研究所に所属しています。クラブでは、環境省レッドデータブック「a類に指定されているスイゲンゼニタナゴ」の保護活動の他、毎年夏に行う合宿や学園祭の地元の川に生息する魚についての研究発表など誰もが身近な水環境に興味を持ってもらうために様々な活動をしています。ここで「水」が出てくる理由は、僕たちの活動拠点である芦田川は中・四国地方で水質ワースト一位という悪名を三十六年間連続でもらっていたからです。水面に油が浮かび、底にヘドロが溜まっている川にもスイゲンゼニタナゴをはじめ、たくさん生き物が住んでいます。水がきれいになれば、生き物の種類はもっと増えます。小さな命を守るためには、少なくとも、今の現状を維持しなければいけません。

さて、これらの活動の中で自分が一番印象に残っている活動を紹介いたします。毎年夏に行っている合宿についてです。

環境科学研究所は毎年夏に学校から少し離れた山野町で合宿をします。そこには、小田川に注ぐ支流の一つである下原川が流れています。山に囲まれ、虫の声と川の音しか聞こえない「自然」という表現がぴったりな町です。そんな自然の香りが漂う山野町での合宿の活動内容は、近所の方々へ自分たちの活動をまとめた冊子を配ってまわったり、下原川の魚類生息調査、山野小・中学校の児童・生徒達との交流です。交流では地元の子供達と合同で魚類調査をします。意外と田舎の子供達の方が魚採りが下手です。

僕が一番驚いたことは、川底にヘドロが溜まっていなかったことです。とても透き通っている本来の川の姿を見ることができました。油も浮かん

でいなく、胸長をはかずに採集を楽しむことができ、水のきれいさを体中で感じる喜びは忘れられません。

山野町でも、学校の近くの神辺町でも生活排水は直接川へ垂れ流しです。しかし、神辺町との違いは洗剤をなるべく使わないようにしている所です。神辺町は山野に比べとても人口が多く、生活にほとんど不便が無いため、水や環境に対する一人一人の意識が薄れてきたのではないかと思います。僕の好きな歌の中に「機械仕掛けの“僕らの真実”はいつか貴方の心を壊してしまうだろう」という歌詞が出てきます。僕が考えるこの歌詞の意味は、機械に支えられている自分たち生活はいつか自然を大切にすることを壊してしまう、です。実際に今、心の壊れた人達によって世界中の自然が壊れています。

僕の住んでいる町には浄化槽が配備され、あまり環境のことを気にしなくてもいいのですが、学校ではそうはいきません。調理実習などで食器を洗う時、なるべく洗剤の量を減らさなければいけません。これは当たり前のことですが、ほとんどの人が川や環境へ対する危機感を持っていません。だから僕たちの活動は報われないことが多いのです。小さな命を守るには少なくとも今の状況を維持しなければならぬということとを、合宿や学園祭で多くの人に伝えていきたいです。そして、僕自身も行動に出て芦田川や芦田川に住む生き物の未来を守ろうと思います。